The Lepidopterological Society of Japan

GENUS *ZERYHTIA* OCHSENHEIMER

岡　田　慶　夫 (YOSHIO OKADA)

Zerynthia Ochsenheimer は地中海沿岸からバルカンや小アジヤにかけて分布する一群のアゲハチョウ科に屬する蝶で，Seitz には *Thais* Fabricius (1807) が用ひられているのでこの名の方が通りがよい．併し *Thais* なる屬名は *Thais* Bolten (1798) により先取され homonym として適用されない．圖に見られる様にきはめて美しい小形のアゲハで，ギフチョウやホソオチョウを思はせる斑紋を有し，出現の期間もギフチョウと似ている．

外形上の特徴としては，雌は交尾後でも尾端に附屬物をつけることなく，この點ホソオチョウに似ているが，尾狀突起は顯著ではない．腹部の外形は實にホソオチョウによく似ている．翅脉は圖示したからそれで理解して頂き度い．

交尾器は3種すべてを圖示したが．著明な特徴は2本の uncus を有することで，この點はギフチョウや *Armandia* 等とよく似，又ウスバシロチョウとも相通ずるものである．特に *Armandia* とは非常によく似て居り，Aedoeagus の形が異り又 Saccus が短い點が目立つた區別點である．又 Tegumen が第8腹節につながる所で尾端の方に向つて折れ返つている，卽ち Tegumen が2段をなしている様に見えるのも特徴の1つといえる．

幼虫は *Aristolochia* を食し，蛹は圖示の如く細長く，頭を上方にしてアゲハ同樣糸で體を支えている．蛹で越冬するが，二年越しになることが時々あるとのことである．蛹の形は白水隆氏よりの私信によるとホソオチョウによく似ているとの事である．私はホソオチョウのものは見たことはないが，山田保治（昆虫世界，XXIII，）木部光德（昆虫研究會會報，II，4，1945）のホソオチョウの蛹の記載や，成虫の腹部其他の形よりして非常に近いと思はれる．交尾器よりするとむしろ *Armandia* に非常に近いようだが，未だ決
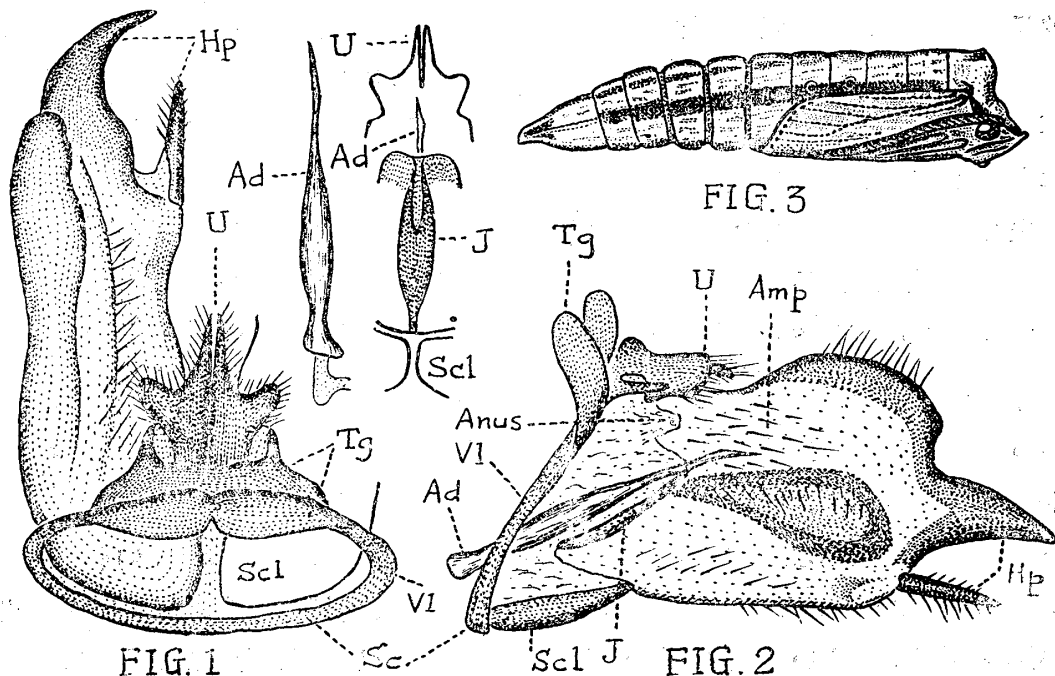
FIG. 1 : Genitalia of *Z. rumina*（背面）
FIG. 2 : 同.　Ad ; Aedoeagus,　Amp ; Ampulla,　Hp ; Harpe,
J ; Juxta,　Sc ; Saccus,　Scl ; Sacculus,
Tg ; Tegumen,　U ; Uncus,　VI ; Vinculum.
FIG. 3 : Pupa of *Z. polyxena*.

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan
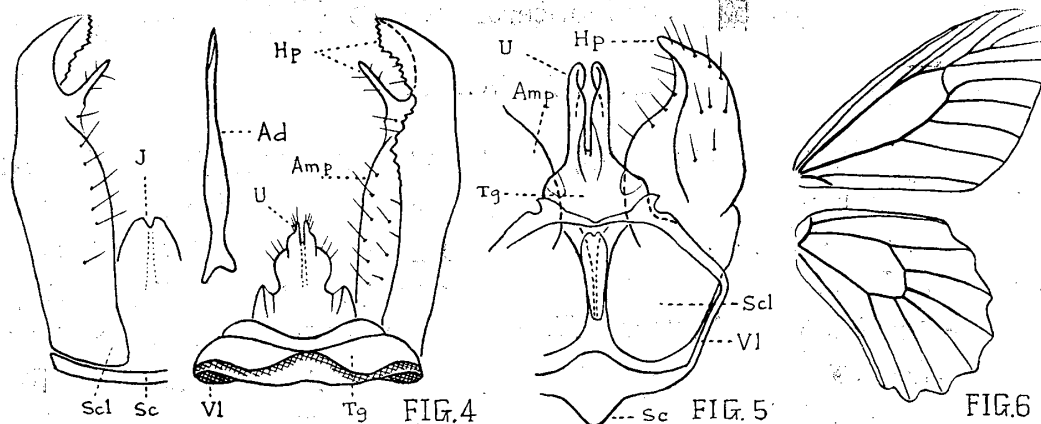
FIG. 4： Genitalia of *Z. polyxena*（左は腹面，右は背面）
FIG. 5： Genitalia of *Z. cerisyi*（背面）
FIG. 6： Venation of *Z. polyxena*

定的な事は言ひ兼ねる．併し少くともこれら3屬は互に接近したものであろう．

Zerynthia Ochsenheimer, Schmett. Eur. 4, p. 129 (1819)

Type： *Papilio polyxena* Schiff. et Denis (1771)〔Scudder, 1875〕

（1） *cerisyi* Godart, Mém. Soc. Linn. Paris. 2, p. 234 (1822)

本種は白色部が多く，ホソオチョウの雌を思はせる．勿論長い尾狀突起はないが，後翅外緣の凹凸が他の2種よりはるかに強く，一見他の黑色部の多い2種と區別がつく．地色は白色より黃色味を帶びるものもある．數個の亞種に分けられているが，產地が接近しておりはたして十分に區別しうるか否か疑問である．分布地は小アジヤ，コーカサス，シリア，パレスチナ等で，其他クレタ島，ロードス島にも產し，前者は明らかに亞種が異る樣だ (*cretica* Rebel)．出現期は4月～6月．圖示せるものはシリア產で，最も分布の廣い *deyrollei* Oberth．とするのが穩當であろうが，Stichel はシリア，パレスチナのものを *speciosa* と命名して區別している．

（2） *polyxena* Schiffermüller et Denis, Wien Verz., p. 162, no. 1, Titelkufer fig., p. 241 (1771)〔=*hypermnestra* Scop., *hypsipyle* Schulze〕

分布地は前種より西に偏して，中南フランス，イタリヤ，オーストリヤ，ハンガリー，バルカン半島，シシリヤ島等主に地中海沿岸に分布している．一見次種と區別がつき難いが，後翅表面の中室の黑紋が平行線で分離されていることや，前翅表面の黑紋にほとんど赤色紋が現れないこと等で區別される．數個の亞種に分けられているが，大別して北方の原型と南方の *creusa* Meigen (=*cassandra* Hübner) に分けてよかろう．南方のものは黑色部が廣くなる傾向があるらしい．尙次の *rumina* との關係で面白い事は *polyxena creusa* の雄と *rumina medesicaste* の雌が交尾した事が最近報じられている (Puységur, Rev. franç. Lépid. 11, pp. 10～15, 1947)．これはギフチョウとヒメギフチョウの關係にも似て興味深い．

（3） *rumina* Linné, Syst. Nat. 10, p. 480 (1758)

前種との區別は前述したが，產地が更に西南に少しずれている．卽ちポルトガル，スペイン，南フランス，モロッコ，アルジェリア等に產する．原型はポルトガル，スペイン，フランスのものであるが，南フランスに多い赤紋の發達したものを *medesicaste* Illiger として區別している．又中間のものを *castiliana* Rühl 等と稱し，或はアフリカ產のものを *africana* Seitz と名付けているが，私の標本でもかなり變化が廣くて，なかなか一槪に明らかに區別出來そうにもない．採集期は前種も同樣で，大體4月下旬から5月上旬であるが，本種は場所によつて異るがスペインあたりでは3月下旬から發生するらしい．併し5月の標本も多いことからしてギフチョウ等よりはかなり長期に互つて發生すると思はれる．

NII-Electronic Library Service